

文学館だより

令和5年8月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高 第88号

第13回 牧水・短歌甲子園 開幕！

学校数、チーム数ともに過去最多の応募の中から本戦出場を勝ち得た12校12チームが牧水のふるさと日向市に集結。第13回牧水・短歌甲子園の開幕です。

日 時

8月19日（土）9:20～17:30 一次リーグ
8月20日（日）9:00～13:00 準決勝・決勝

会 場 日向市中央公民館

短歌に懸ける高校生の熱き戦いを
ぜひ会場でご覧ください。



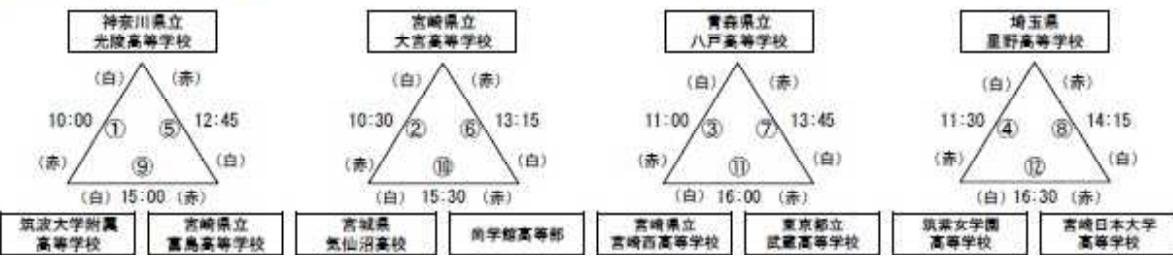
20日 準決勝・決勝

優 勝



19日 1次リーグ

*1次リーグの組合せは、実行委員会において事前に抽選を行いました。



資料提供 日向市教育委員会スポーツ・文化振興課

繁少年の下宿跡を訪ねてきました

「自分が住んでいた家の隣が牧水の下宿先だった。40を過ぎるまで知らんかったよ。」と、先月、来られたお客様が言って帰られた。

どうしてもこの目で確かめてくて、行ってきました。



延岡市新小路
撮影 2023.7.22

文学館ピアノから生まれたドラマ



愛する旦那様を亡くされた〇〇さん。
旦那様が好きだった曲を弾けるようになりたいとピアノのレッスンに通い始めた〇〇さん。
旦那様が文学館のこのピアノに座っている写真が1枚残されている。
一周忌法要を終えた〇月〇日。
〇〇さんは旦那様が座ったこのピアノに座り、亡き旦那様を思い、ピアノを弾いた。

家族、友人らも同席し故人を偲んだ。

『牧水先生の思い出』 牧水顕彰会刊 昭和29年 より

特集 牧水没後95年

その4 「牧水先生に対する私の記憶」

同年小学同窓生 日高 与吉

私共の小学生時代校長先生が女子生徒に指輪をはめて学校にきてはいけないと言われたのに、女子生徒は指輪をはめて学校にきているが、あの指輪を取りあげてやろうではないか、と男子生徒が皆で話し合って女子生徒のはめている指輪を強制的に取り上げ之を石で叩いてこわしてしまったことがあった。その事がすぐ校長先生に知れて、男子生徒は全部校長室に呼ばれ、「お前達は女子生徒の指輪を取り上げて之を叩きこわしたそうだが、他人の物を再び使用出来ぬようにしたことは甚だよくない。」誰が煽動者かを詰問されたが、誰も黙して返答する者がない。その時、牧水君が、私がしましたと申し出て皆の罪を自分一人で負った。

校長先生は「よろしい率直に皆でやったことを自分が責任を負うその精神は誠に賞すべきである。お前はあちらに行ってよろしい。」

外の者は皆そのままそこに立っておれと罰せられたことがあった。

又或る時放課後皆運動場で鬼ごっこをして遊ぶ折りの言い草に「玉にも勝る心の光、玉にも勝る心の光」と繰返し繰返し口々に言って遊び戯れている時、牧水君が「学びに勝る宝なし」というたので皆が真似して、「玉にも勝る心の光、学びに勝る宝なし」と互にとび廻って遊んだものであるが、今にして考えると矢張り小学生時代から歌人として後世に名をなす素質を持っていたことが考えられる。

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

おもひやるかのうす青き峠のおくにわれのうまれし朝のさびしさ

かひ

牧水は明治18年8月24日に現在の日向市東郷町大字坪谷3番地の若山医院2代目院長若山立蔵41歳、妻マキ38歳の長男として出生、繁と名付けられた。スエ、トモ、シヅの姉が3人、4人姉弟の末っ子である。10歳違いの3姉シヅとの間に3人ほど男児が生まれたようだが幼くして亡くなっている。人生五十年時代の41歳と38歳。決して若くはない。半ば諦めかけた折の男児出産だ。両親の喜びは殊の外大きい。一方、立蔵が前厄であるうえにこれまでに男児3人を亡くしている。この子の生育に抱く危惧の念も強い。それで土地の風習に従って「養児」(みのご)の呪い(まじない)の「儀式」を行うことになった。

先ず生後2、3ヶ月の若山家の幼児、つまり後の牧水を同家裏門外の桜の木の下に蓑2枚を敷いた仮の寝床に寝かせる。その子を近所の那須チヨが抱き上げる。チヨは5人の丈夫な男の子持ちの主婦である。彼女はその足で若山家を訪れ『うちにこの子が生まれたけどお乳が足りない。お宅で貰ってもらえないかの』と口上を述べる。

若山家では喜んで養児を抱き取る。その子はチヨの家の子だから若山家の災厄とは一切関係なく元気に育つという理屈だ。当時は靈験あらたかな「儀式」として一般に信じられていたようだ。幼年時代の牧水は、チヨの家が天領時代の坪谷の番所(見張所)だったことから『番所の阿母(おっかあ)』と呼んでなついていたと言う。(以下省略)

塩月 真著 「繁が牧水になったまち延岡」(夕刊デイリー掲載)より抜粋